

東京国際空港 国際線旅客 ターミナル 様

画像ご提供・ご協力:
東京国際空港ターミナル株式会社 様

東京国際空港ターミナル様では、空港だけでなく周りの環境にも配慮した「エコエアポート」として、2010年10月に国際線旅客ターミナルをオープンしました。大気、騒音、振動、土壌、廃棄物、エネルギー、自然環境について様々な対策を行い、CO₂の排出量も抑制しています。



- 所在地 東京都大田区羽田空港2-6-5
- 開業 2010年10月
- 敷地面積 約130,000m²
- 延床面積 約159,000m²(供給処理施設含むターミナルビル)
- 階層 地上5階建
- 駐車場 約2,300台収容、延床面積 約67,000m²、地上6層7階建

▼3階チェックインロビー



▲ターミナル東側外観

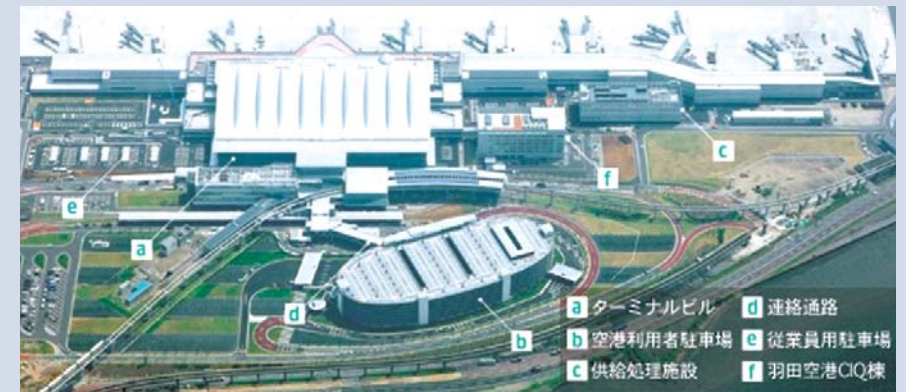
国際線旅客ターミナルのデザインコンセプトは「空」。チェックインロビー上部の大屋根は、秋風の筋雲のおおらかな姿や、富士の裾野の雄大な曲線を引用し、南北に伸びるウイングとの対比でゆったりと空に向かう景観を生み出しています。

様々な環境技術を取り入れた、「エコ・エアポート」としての環境負荷低減策に貢献

様々な環境技術による総合的な
環境負荷低減の取り組みで
「環境と人への配慮」を実現した
国際線旅客ターミナル

発電と同時に廃熱も有効利用する省エネルギーシステム

敷地内の「供給処理施設」では、電気や空調、排水処理等、様々な設備が管理運営されています。またコージェネレーションシステムを導入し、エネルギーの有効活用を促進。ガスエンジンで発電した電力をターミナルビルの照明等に使用すると共に、発電の際に得られる廃熱を、蒸気吸収冷凍機、暖房、給湯の熱源として利用しエネルギーの多元的有効利用を実践しています。



▲国際線旅客ターミナル全体図



- 納入機器
二重効用吸収冷温水機
FUW-HS1000F1G1L(ガス燃13A) 2基
蒸気二重効用吸収冷凍機
BW-HS210F1E1S 1基
- 用途
冷暖房
- 試運転
2010年8月
- 担当
首都圏支店 ビルシステムグループ
ビルシステム第3チーム
ファシリティソリューショングループ
ソリューション営業チーム



国際線旅客ターミナルの空調は、ターボ冷凍機と吸収式冷凍機をはじめとした熱源設備によりベストミックスを実現。また吸収冷凍機は、ガスエンジンからの廃ガス(廃熱)を利用してつくられた高圧蒸気を熱源としています。当社の吸収冷凍機は、国際線旅客ターミナルに快適空調をお届けすると共にコージェネレーションシステムの一部として、環境負荷低減に大きく貢献しています。